

私はシベリヤの捕虜だった

監督： 阿部 豊・志村 敏夫、製作：シュウ・タグチプロダクションズ、
製作年：1952 年、製作国：日本、上映時間 86 分、© 田口寧

日時 | **2013 年 7 月 27 日(土)**
13:30 ~ 16:30

場所 | **成蹊大学 3 号館 102 教室**

事前申込み不要！
参加費無料！

当日は、富田 武成蹊大学法学部教授の講演も併せて行います。

長らくその存在が不明となっていた映画『私はシベリヤの捕虜だった』
(1952(昭和27)年製作)が、このたび発見されました。

映画の所有者が、抑留者ご本人やご親族等の皆さまにご鑑賞いただきたいと希望されていることから、本センターでは、連続映画上映会の一環としてこの映画を上映いたします。また、この映画は、当時の東西冷戦、極東情勢などから製作された経緯があると考えられることから、あわせて当時の国際情勢等についての講演会（講師：富田武成蹊大学法学部教授）も行います。



〔あらすじ〕

藤村、吉田、林、松本、金子の仲の良い戦友五人は、敗戦と共に捕虜となり、シベリアの流刑囚のいた建物に收容され、原始林伐採の強制労働へかり立てられた。

寒気と空腹を堪えながらの苦しい作業に、体力の乏しい金子は倒木の下敷となって死に、林は脱走を企て、自動小銃の音に追われて広原の果てに姿を消した。

帰国「ダモイ」という言葉だけを頼りに、残る三名は新しい收容所へ移された...

(Web サイト「Movie Walker」より)

※本作品は、プロローグとエピローグなどが一部欠落しており、不完全版となっております。

※今回の上映は、DVDで行います。

※制作された1952年当時、日本は、なおGHQの影響下にあり、国際情勢としては、朝鮮戦争や東西冷戦の激化がありました。その点をご理解の上でご鑑賞ください。

主催：成蹊大学アジア太平洋研究センター (CAPS)

〒180 - 8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

Tel: 0422-37-3549 Fax: 0422-37-3866

E-mail: caps@jim.seikei.ac.jp

HP: <http://www.seikei.ac.jp/university/caps/>